

<p>1. 事業細目：小規模増殖場造成事業</p> <p>2. 研究名：小規模増殖場造成事業事前調査</p> <p>3. 研究期間：平成元年度～ 年度</p>	<p>予算額 350千円</p> <p>予算区分 県単</p> <p>4. 担当者：岡本、千葉、山中</p>
<p>5. 目的</p> <p>琵琶湖漁業において主要水産資源であるニゴロブナ、ホンモロコ等温水性魚類の産卵増殖場造成</p>	<p>のための事業計画策定のため、候補地の増殖場としての適合性を調査し、検討を行った。</p>
<p>6. 方法</p> <p>調査地点は、びわ、奥出湾、志賀地区である。 (図1)</p> <p>以下の項目について現場調査、聴き取り調査、文献収集を行った。</p> <p>(1) 漁場環境調査：5～8月にかけて計5回沿岸各1定点を定め調査を実施した。</p> <p>(2) 餌料生物調査：(1)と同日同定点において調査を実施した。</p> <p>(3) 産卵状況調査：5～8月にかけて計10回各定点に人工産卵床を設置し産卵状況を調査した。</p>	<p>(4) ヨシ地・藻場調査：既存資料、航空写真により現状を把握した。</p> <p>(5) 親魚回遊状況調査：滋賀農林水産統計をもとに検討した。</p>
<p>7. 結果の概要</p> <p>漁場環境については、定点を沿岸に設定したためいづれの地区もSS、CODが水産用水基準を上回ることもあったが、概ね良好であると考えられる。</p> <p>餌料となる動物プランクトンについては、志賀地区が最も多く、びわ、奥出湾の順であった。志賀地区では、5～7月に対象稚仔魚の餌料となるワムシ類、ミジンコ類が豊富であった。表1に餌料生物調査結果を図2に志賀地区の出現の様子を示す。</p> <p>対象魚の産卵状況については、びわ、志賀地区で風波のため人工産卵床の流出が数回あった。産卵状況は、びわ、奥出湾では全く認められなかった。志賀地区では、フナ、モロコの産卵を2回確認した。</p> <p>ヨシ地・藻場については、温水性魚類の産卵生育の場として重要なヨシ帯が、びわ、志賀地区に比べ奥出湾では貧弱でほとんど存在しない状況であった。志賀地区は、ヨシ帯面積が琵琶湖全体のヨシ帯面積の10%を占めており、ヨシの密生度や植生の幅も良好であった。藻場は、志賀地区は急深な所が多く、水深2mまではササバモ、イバラ</p>	<p>モ、コカナダモがまばらであり、2m以深でコカナダモが密に繁茂していた。しかし、その植生面積は少なかった。</p> <p>親魚の回遊状況については、エリによる漁獲状況をみると奥出湾、びわ地区では漁獲統計のぼるほどフナ、モロコは漁獲されていない。志賀地区はエリによるホンモロコの漁獲量が昭和62・63年において琵琶湖全体の約14%を占めており、4～5月が接岸時期である。</p> <p>以上、結果を総合すると、志賀地区が増殖場候補地として適当であると考えられる。また、志賀地区はやや湾入した水域ではあるが、消波堤で風波の影響を緩和することにより、さらに良好な内湖的環境の水域を創出できるものと考えられる。</p>

8. 主要成果の具体的数値



図1 調査地点

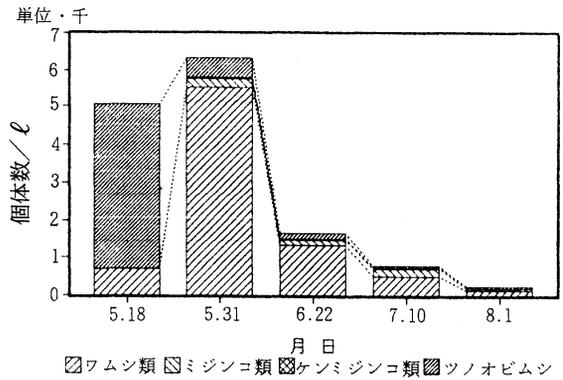


図2 志賀地区における餌料生物の出現の様子

表1 餌料生物調査結果 (個体数/ℓ)

門	属	びわ					奥出湾					志賀					
		5.18	6.7	6.22	7.10	8.1	5.18	5.31	6.22	7.10	8.1	5.18	5.31	6.22	7.10	8.1	
輪形動物門	ドロワムシ属																
	ハネウデワムシ属	259	578	2144	138	11	23	156	437	32	93	90	2390	395	406	64	
	ネズミワムシ属		32										20				
	フクロワムシ属	11					12			11		10		9	21	11	
	ツボワムシ属						12										
	カメノコウワムシ属	65	11				35	10				20					
	トゲナガワムシ属	32	21	19	28		12		10	11			41	19	31		
	スジワムシ属	86	193	650	37	11	23	686	187	11		320	1360	301			11
	その他ワムシ	11	32	97	46	11	23	62				20	103	226			42
	ワムシ卵	43	300	456	37	23	23	250	114	11	10	250	1576	357			
小計		507	1167	3366	286	56	163	1160	748	76	113	710	5521	1307	479	139	
節足動物門	ミジンコ属							10					10				
	ゾウミジンコ属	22	21		120	57							216	150	218		
	小計	22	21		120	57		10					226	150	218		
	エオヒガナケンミジンコ属					34		10							9		
	アサガオケンミジンコ属	11	11				12		10		10						11
原生動物門	ノーブシウス	22	43	19	18	46	58	10	21	11	21		52	9	21	32	
	小計	33	54	19	18	80	70	20	31	11	31		52	18	21	43	
	ツノオビムシ属	119	86	29	534	251	138	177	468	233		4370	515	150	52	64	

9. 今後の問題点

増殖場造成後の効果をいかに把握するか検討する。

10. 次年度の具体的計画

既設増殖場における効果把握